

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	学校ボランティア活動事業							
1-2 担当	部	教育部	課又は施設	学校教育課	係	学校教育係	評価票作成者	学校教育担当係長 近藤恒明
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			③基本施策	義務教育	コード	4-3-1
	②項	学校教育			④単位施策(中)	開かれた学校づくり	コード	4-3-1-2
					⑤単位施策(小)	開かれた学校運営の推進	コード	4-3-1-2-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	学校ボランティア関係者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	地域の人・文化との関わりを通して、豊かな心を持った子供達を育てる。ボランティアは子供達と触れ合うことにより、地域の教育を担う一員であることを認識する。			
1-5 事務事業の内容	学校ボランティア保険に加入し、ボランティアが安心して活動できる状態にする。地域の特性を持った活動内容を取入れる。							

2 事務事業実施の状況

	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	ボランティアによる総合学習回数を増やした。	地域と学校が連携して教育を実践する社会が望まれている。
	平成19年度	総合学習以外にも小学校英語活動や社会科、クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。	”
	平成20年度	市民協働課のボランティア保険に加入し、総合学習をはじめ、小学校英語活動や社会科クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。	”
	平成21年度	市民協働課のボランティア保険に加入し、総合学習をはじめ、小学校英語活動や社会科クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。	地域と学校が連携して教育を実践する社会が望まれている。
	平成22年度	市民協働課のボランティア保険に加入し、総合学習をはじめ、小学校英語活動、社会科、クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。地域の支援を得ることで、学校と地域との連携体制が築かれる。教育が子ども一人ひとりに対し、きめ細やかな指導をする時間を確保することも期待できる。	地域住民が参加できる学校作りを望んでいる。
	平成23年度	市民協働課のボランティア保険に加入し、総合学習をはじめ、小学校英語活動、社会科、クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。地域の支援を得ることで、学校と地域との連携体制が築かれる。教育が子ども一人ひとりに対し、きめ細やかな指導をする時間を確保することも期待できる。	”
	平成24年度	市民協働課のボランティア保険に加入し、総合学習をはじめ、小学校英語活動、社会科、クラブ活動など、多くの場面で地域の人材を活用するようになった。地域の支援を得ることで、学校と地域との連携体制が築かれる。教育が子ども一人ひとりに対し、きめ細やかな指導をする時間を確保することも期待できる。	”
	平成25年度		
平成26年度			
平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	学校ボランティア参加数(人)		400(人)	600(人)	各学校のボランティアの人数 前期 年間 400人 後期 年間 600人

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	400(人)	423(人)	600(人)	600(人)	600(人)	600(人)	600(人)			
	直接事業費 b (千円)	220	220	0	0	0	0	0			
	人件費 c (千円)	0	0	0	0	0	0	0			
	合計コスト d (b+c) (千円)	220	220	0	0	0	0	0			
単位コスト d/a (千円)	1人当たり 0.55	1人当たり 0.52	1人当たり 0	1人当たり 0	1人当たり 0	1人当たり 0	1人当たり 0	1人当たり 0	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → ボランティア保険料 市民協働課にて一括でボランティア保険に加入のため、費用なし

2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度(%)	400	423	600	600	600	600	600	600	
		66.7	70.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- ①必要性(必要な事務事業であるか)
 - ②公共性(公が実施する意味があるか)
 - ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	各学校毎の「特色ある学校づくり事業」をより充実し、ボランティア活動を発展させる。	ボランティアの人数の増加を見込んで、予算の確保に努める。	
平成19年度	"	"	"	"
平成20年度	"	保険の予算確保については、市民協働課が行っており、今後も体験学習の充実を図り、各学校におけるボランティア確保に努めたい。		"
平成21年度	各学校毎の「特色ある学校づくり事業」をより充実し、ボランティア活動を発展させる。	保険の予算確保については、市民協働課が行っており、今後も体験学習の充実を図り、各学校におけるボランティア確保に努めたい。		各学校とも、いろんな活動にボランティアが関わり、地域型参加ができた。
平成22年度	各学校毎の「特色ある学校づくり事業」をより充実し、ボランティア活動を発展させる。保険の予算確保については、市民協働課が行っており、今後も体験学習の充実を図り、各学校におけるボランティア確保に努めたい。			
平成23年度	各学校毎の「特色ある学校づくり事業」をより充実し、ボランティア活動を発展させる。今後も体験学習の充実を図り、各学校におけるボランティア確保に努めたい。地域の実情に応じて学校教育活動の支援を頂くこと。地域と学校との連携ができた。			
平成24年度	各学校毎の「特色ある学校づくり事業」をより充実し、ボランティア活動を発展させる。今後も体験学習の充実を図り、各学校におけるボランティア確保に努めたい。地域の実情に応じて学校教育活動の支援を頂くこと。地域と学校との連携ができた。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度	B	更なるボランティアの拡大を図り、今後も体験学習を充実させ、学校と地域の連携強化に努めること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			